

当院におけるバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）検出のご報告（第1報）

令和3年12月27日
和歌山県立医科大学附属病院
病院長 中尾直之

昨年よりバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）*が和歌山市内を中心に多数報告されています。当院でも昨年から一部の患者さんで確認されており、当該部署でスクリーニング検査、感染対策の徹底、対策会議などを行ってまいりました。しかし、今年の7月以降も新規発症者が少数あり、それに伴う積極的調査によって、45名のVRE陽性患者さんを確認しました。現時点で殆どが症状のない保菌者であり、この菌によって重篤な状態になられた方はなく、多くは退院され、12月24日時点で保菌者13名のみが入院中ですが、この方々は他の疾患の治療目的で入院されております。

一方で、大阪泉南地域や和歌山市内全体でVREが多発している状況、及び、市保健所や国立感染症研究所耐性菌研究センターのご助言を受け、全入院患者さんを対象としたスクリーニング検査を直ちに開始しており、全病棟の衛生環境についても徹底的に見直し、感染予防対策に万全を期したいと考えております。

皆様には何かとご迷惑をおかけいたしますが、感染拡大を防止するため、何卒ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

今後、新たな結果や情報が入りましたら適宜ご報告申し上げます。

*VRE：ヒトの腸内にいる一般的な細菌（腸球菌）がバンコマイシンという抗菌薬に効きにくくなる、または効かなくなる（耐性化）菌のことをVREと呼びます。それ自体の病原性は非常に弱いので、健康なヒトが感染しても病気を起こすことはありませんが、重症がんや免疫不全などの重い病気の患者さんが感染すると病気を起こすことがあります。無症状であることが多いので普通の検査では見つかりにくい性質があります。

（VREの詳細につきましては添付のQ&Aをご覧ください。）

■VRE一般に関するご質問

VREとは何ですか？	腸球菌は人や動物の腸に住み着いている菌（常在菌）です。VREとはバンコマイシンという抗生薬に耐性を獲得した（効かなくなった）腸球菌です。
VREの国内状況はどうなっていますか？	我が国では、VRE感染症は感染症発生动向調査において全数把握対象疾患になっています。ただし、これは症状がある場合（VRE感染症）に限った届出となっています。近年、急性期医療機関からの報告数が増加し、2020年には全国で135例のVREが報告されました。また、VREが報告された都道府県数は、2013年が15都道府県であったのに対し、2020年では26都道府県と、約1.7倍に増加しています。VREが検出された方のほとんどは無症状の保菌者ですので、保菌者を含めるとこれ以上の広がりがあると考えられます。
VREの保菌と感染症の違いは何ですか？	腸内にVREが存在するだけで、どのような病気も起こしていない状態を「保菌」といいます。VREによって発熱などの症状を引き起こしている状態を「感染症」といいます。
VREに感染したらどうなりますか？	健康人の腸内などにVREがいても、病原性が非常に弱いので、病気（感染症）をおこすことはありません。しかし、白血病等の癌、胸腹部外科手術後、熱傷、移植といった基礎疾患を有する患者では、敗血症などの重篤な感染症の原因となることがあります。
VRE感染症にはどんなものがありますか？	血流感染症（菌血症）、感染性心内膜炎、尿路感染症、胆管炎、創部感染症などが代表的です。
下痢しているのですが、VREではないですか？	VREは元々腸内にいる病原性の低い菌ですので、腸炎や下痢を起こすことはありません。その他の病気の可能性につきましては、医師にご相談ください。
VREはどのように感染するのですか？	VREは接触感染によって広がります。VREをもっているヒト（保菌者といいますが）の便から排出されたVREが、保菌者の手からヒトへの直接的感染、あるいは医療従事者やベッド柵、トイレ、ドアノブなどの環境を介した間接的感染によって伝播していきます。VRE保菌者の飛沫（咳やくしゃみ）では感染しません。
VREに感染したか どうかはどのように分かりますか？	便や直腸のぬぐい液を培養することで分かります。VREは保菌しても通常は無症状なため、VREを狙った検査をしてはじめて保菌者であるかどうか確認できます。
VREの何が悪いのですか？	腸球菌はもともと有効な抗生物質が少ない菌です。VREではさらにバンコマイシンという普通の腸球菌なら効くはずの抗生物質が効かなくなっている（これを耐性といいますが）ため、有効な抗生物質が非常に少ない多剤耐性菌であることが問題です。
そんなに怖くない 細菌とのことですが、なぜ大騒ぎになるのですか？	VRE自体の病原性は弱いのですが、重い病気の患者さんがVRE感染症を発症すると重症化するおそれがあります。感染しても無症状であることが多く、VREを狙って検査をしない限り検出できませんので、感染状況が正確に把握することが難しく、上記のような患者さんが入院している病院ではとくに注意が必要といわれています。

■VRE陽性の方からのご質問

<p>VRE に感染すると退院できないのですか？</p>	<p>入院の原因となった病気が治れば通常通り退院できます。高齢者でVRE を保菌している方が老人保健施設や介護施設へ転院される場合、施設の受け入れ態勢が整うまで退院延期になることもあります。</p>
<p>VRE に感染していると言われました。退院後の日常生活はどうしたらよいでしょうか？</p>	<p>周囲に高齢者や新生児、特別に抵抗力の弱い方がいない場合は、過度に神経質になる必要はありませんが、できるだけ、以下のことを心がけてください。</p> <p>手洗い：食事前、トイレ後には石けんと流水で手洗いをしてください。 トイレ：ウォシュレットのノズルを介した感染が時々ありますので、ご家族の中に感染させたくない方がいる場合には、使用しない方がよいかもしれません。 入浴：出来るだけ入浴し、体を清潔にします。（シャワーも可）浴槽には体を洗ってから入るようにしましょう。 食事：制限はありません。 洗濯：便や尿で汚れがある場合は、下洗いを行ってから、他の家族の洗濯物と一緒に洗ってください。また、よく乾燥させてください。 運動：制限はありません。</p>
<p>VRE に感染していると言われました。家族や知り合いにうつりませんか？</p>	<p>主に便からうつる菌ですので、トイレの後など、一般的な手洗いを励行していただければ、うつる可能性は非常に少ないです。なお健康な方が保菌者となること自体が少ないといわれていますが、かりに保菌者となっても発病することはありません。また一定の条件（抗菌薬投与などVRE感染を助長するリスクがない状態）で、一定の期間を過ぎるとVRE はいなくなるといわれています。</p>
<p>同居する家族に感染したらどうなりますか？</p>	<p>VRE は長期間、保菌者の腸内にとどまる可能性があります。しかし、健康なご家族であればVRE による感染症を起こす可能性はほとんどありません。</p>
<p>VRE に感染していると言われました。家族の検査はしてもらえますか？</p>	<p>健康な方は保菌者になりやすく、かりに保菌したとしても無害な菌ですので、ご家族の検査は必要ないと考えています。</p>

■VRE陽性の方以外からのご質問

<p>保菌者がでている病院で外来診療を受けたいのですが、うつりませんか？マスクは必要ですか？</p>	<p>VRE はインフルエンザのようにせきやくしゃみではうつりませんので、VRE 感染予防のためのマスクは不要です。長期間にわたってトイレなどを共用する入院生活と違い、外来で感染することは極めて少ないと考えられます。万全を期すならば、予防策として手洗いが最も有効です。特にトイレを使用する際にはウォシュレットの使用を控え、トイレ退室時には石鹸を用いた十分な手洗いとペーパータオルを使用することで感染リスクは最小限となります。</p>
<p>VRE 感染者のお見舞に行きたいのですが、大丈夫ですか？</p>	<p>健常者が保菌者となる可能性は少ないと思われますし、患者さんやベッド周囲の環境に触れたりしなければうつる心配はありません。もしそういった可能性がある場合は、念のため手袋とエプロン着用をいただきたいと思います。また、面会終了後は念のため石けんと流水で手洗いされることをお勧めします。</p>